

ハイドランジアの育て方(鉢植栽培)

ハイドランジアとは、アジサイ科・アジサイ属植物の総称です。原種は、東アジア、北アメリカ東南部及び南アメリカ中南部に約40種が分布し、このうち日本には9種程度が自生します。また、西洋アジサイなどの交配種は、400~500品種作られています。

置き場所

真夏を除いて十分に日光に当てます。真夏は、直射日光の当たらない明るい日陰で管理します。寒さには比較的弱いので、冬は、寒風の当たらない場所で管理します。

肥料

生育期：開花までは液体肥料の500倍液を月2回与えます。

花後：油粕と骨粉を混合した直径2~3cmの玉肥を2~3個置肥します。

植え替え

培養土は、青花系品種では酸性土を、赤花系品種では中性土を用います。これは、夏の間のアルミニウム吸収が翌年の花色に影響するためです。根の生育が旺盛なため、毎年花後に古い土を3分の1程度落とし、以下の培養土を用いてひとまわり大きい鉢に植え替えます。

(青花系品種) → 赤玉土：ピートモス = 1：1

+培養土1ℓ当たり	{ 過リン酸石灰	1g
	{ 硫酸カリ	1g
	{ 緩効性化成肥料	3g

(赤花系品種) → 赤玉土：腐葉土 = 1：1

+培養土1ℓ当たり	{ 炭酸石灰	20g
	{ 溶性リン肥	3g
	{ 緩効性化成肥料	3g

せん定

花後、遅くとも7月下旬までには、花の下第2または第3節のすぐ上まで切り戻します。枝数が多すぎると花が小さくなるので、古い株や腋枝の多い株は、充実した茎4~5本を残して間引きます。冬のせん定は、枯れ枝や不要枝を除く程度とします。

繁殖

5~7月、新しく伸びた枝を6~7cmの長さに切り、鹿沼土、パーミキュライト等を用いて挿し木します。この時、大きい葉は葉先の半分を切って、しおれを防ぎます。

病害虫

夏にハダニが発生しやすいので、葉の色が黄色くなるようでしたら、殺ダニ剤を散布し防除します。

